

新潟県

公民館月報

K O M I N K A N G E P P O



特集 第54回新潟県公民館大会基調講演概要 その2

4.5

- 3 視点 合併をひかえて
- 3 ひろば 学社融合
- 6 実践記録シリーズ 5日制で訪れた地域の出番
- 7 サークル交流 十日町手話サークル(十日町市公民館) / 子育てサークルトトロの友達(羽茂町公民館)
- 7 素顔拝見 高橋正範さん(豊栄市) / 小林孝至さん(刈羽村)



三川村教育文化センター／三川村

No.608

平成15年度下越地区公民館関係役員 研修会開催

地域づくりと公民館

標記の研修会は、西蒲・燕公連協主管の下、10月2日(木)・3日(金)の二日間にわたり、弥彦村四季の宿「みや」を会場に、百九十余名の参加を得て開催された。

初日は開会式の後、四つの分科会に別れ、夕刻まで熱心な討議が展開された。

第一分科会は、「地域文化の継承と公民館」をテーマに、民俗芸能等の継承の事例が相川町公民館から発表され、これらを糸口にして地域



開会あいさつ、今井昭友会長

文化の継承について討議された。

第二分科会は、「地域リーダーの育成と公民館」をテーマに、第2回「中大口匠ギヤラリー」について、地域起こしのリーダーである豊栄市中大口商工振興会中大口匠通り会長から、地域ぐるみでの取り組み事例が発表され、将来的な展望に向けての具体的な討議で盛り上がった。

第三分科会は「学校と地域を結ぶ公民館」をテーマに、地元の学習素材を活用した



分科会討議

研究活動について、村上市

内小学生の郷土研究活動例が紹介発表され、学校、公民館、地域との連携実践のあり方等も討議された。

第四分科会は「公民館職員のあり方」をテーマに、公民

平成15年度中越地区 公民館職員研修会開催

に館と共
民しと公
むと公
めむと
歩むめ

激動する社会情勢の中、地域住民から真に支持され、必要とされる公民館となるにはどうするべきか、その方向性を考える契機として本主題が設定されたという。

去る10月3日(金)、中魚・十日町社教振興会主管の下、約百十名の参加を得て、社会教育の伝統を誇る十日町市公民館で開催された。

研修会の冒頭「住民と共に歩む公民館をめざして」公民館の新しい役割と職員の課題」と題して、第44回関プロ

館初任者を対象に、演習等を受けて任務・役割・企画力等具体的な研修がなされた。

分科会終了後、各分科会の報告、研修の総括がなされた。

第二日目は、弥彦村矢作里神楽保存会の公演、そして「地域づくりはあるもの探しから」と題して、新潟県地域づくりアドバイザー大滝聡様の講演でしめくくられた。

大会のシンポジストで実践家しかも本県村上市出身の片野親義館長(さいたま市立岸町公民館)から、自らの体験に基づき具体的な実践事例をおして基調講演がなされた。

午後、越後妻有交流館等の施設見学の後、五つの分科会

第一「住民力を生かした公民館活動のあり方について」
第二「学校週五日制対応事業の現状と今後について」
第三「青年層の公民館事業への参加促進について」

関東人権擁護委員連合会長表彰



武部 治雄様
(赤泊村公民館館長)

このたび人権擁護委員として永年の功績により、赤泊村武部公民館長が受賞されました。
おめでとうございます。

第四「設置基準改正に伴う公民館活動のあり方について」
第五「市町村長部局で所管している事業と公民館事業との連携について」
に別れて、それぞれのテーマに基づき協議を深めた。



基調講演中の片野親義館長

視点

合併を ひかえて

水原町教育委員会
教育長 大江 吉賢



北蒲原郡南部郷（安田町・京ヶ瀬村・水原町・笹神村）は、平成16年4月1日合併し、「阿賀野市」としてスタートします。

現在、教育委員会も学校教育、社会教育に分かれ、調整を進めています。

公民館は、運営的なことも多くありますが、やはり根本的なことは地域の皆さんが、自主的に企画・活動できる「地域に開かれた公民館」として位置付けていくことであると考えます。

合併は、良いことばかりで

なくいろいろな問題も浮き彫りにされますが、要は基本が何であったかを見直し、確認する最も良い機会であると思っています。

この大きな変換である合併を、小さい輪から大きな輪へと広げる、新しい市民同士の交流の場として進めていければと思っています。

そのためにも、公民館活動を今まで以上に社会情勢の変化に対応した、多様な住民の皆さんの学習要求に添えていける活動にしていかなければと思っています。

H O T N E W S 掲 示 板

月刊公民館第2回編集委員会開催

1. 日時 平成15年9月3日（水） 15時から17時
2. 会場 全国公民館連合会会議室
3. 内容
(1)平成16年度月刊公民館編集方針及び編集内容について

●編集方針●

1. 全公連の機関誌としての性格を強くにじませる編集に努めること。
2. 全国の公民館関係者が求めている我が国唯一の公民館にかかわる情報誌として、内容を充実される編集に努めること。
3. 時代の変化に対応し、指導性に富む編集に心がけること。
4. 通信員、読者を大事にする編集に努めること。
5. 編集委員の指導・助言を受けながら進めること。

- (2)10月以降の特集テーマ、執筆者の選定等について
 - ・3月号までのテーマ、実践事例、論考の未定部分について、率直な意見交換を行いながら選定していった。
 - ・なお、人権教育の掲載内容については、今後も、慎重審議、検討を重ねていくこととなった。
- (3)次回の編集委員会について
各委員と事務局の日程調整の上、12月3日（水）を設定した。 以上

ひろば

学社融合

山北町社会教育委員 佐藤 助二

山北町には八校の小学校がありますが、来年4月、二校に統合されます。

私の地区にある小学校も、一三〇年余の歴史を閉じることになります。

長い間、情熱をもって子どもたちを見守ってきた学区民の思いはいろいろだろうと思います。

子どもたちの凶悪事件が起こるたびに、学校・家庭・地域社会の連携が強調されます。しかし、責任は家庭・学校に向けられ、地域社会の責任は問われてきませんでした。真の三者の連携は、情報の連携にとどまらず行動の連携にあります。

「子育て」「子どもたちが主役の学校づくり」を支

えるのは地域社会の責任であり、学社融合の推進にあると信じます。

少子化で児童・生徒のいない家庭が増え、他者との関わりを苦手とする風潮の中で、統合による学校離れが心配です。

県北圏域の合併も目前ですが、小学校の統合を機に、学社融合の議論を深めていきたいものだと考えています。





発言中の
吉田社教
主事

ません、半年は全然応答なかったというんです。でも自分で工夫しているうちにどんどん応答が来るようになった。「どういう工夫したのですか」というと話してくれるわけですね、実践ですよ、全くコンピュータの素人が自分で研究して米がどんどん売れるようになった、すごいことだと思うのです。それからコレステロールが半分の豚を育てている方が、また豚の米も育てているわけです。循環型をやっているわけです。豚の糞尿を肥料にする、そういうふうな形で循環型をやっている。おいしい豚だ、私は好奇心が強いので家まで尋ねていきまして、そしたらその人が作っているベーコンをもらったけれど、すごく美味しかったです。また食べたいなど思っているのですが、そういうふうな面白い人が地域にいっぱいいるのです。これは加治川村だけではなく、どの地域にも素晴らしい人たちはいると思う。その人たちは今度はそんな宝物を生かしてどんな村の将来像が描けるだろうかというワークショップを開いて、また地図に書き込んでるときに小学校の教頭先生が参加されたのです。加治川の、その先生はちょっと知っている先生だったけれども、出てこれた、目を輝かせていました。教頭先生がいうには小学校の1、2年は小動物の観察みたいなことが学習のテーマになるらしいです。そしたら地域にそれら全部があるわけです。蚕育て、カワニナを育てながら観察小屋を作っている人までいるわけです。それからサンショウウオがいるところもわかっていました。教頭先生は一生懸命メモをとっていました。3、4年は野鳥の観察といえば野鳥の観察している人がいる。そんなガイドができる人はいっぱいいる。5、6年生は歴史、私たちも歴史調べたんですけども、その場で教頭先生は全部見通しがつくといいますが用が足りるわけです。この加治川村を全部フィールドにしなから、よそへ行って研修していったらいいのです。でもよそなんか全然行く必要ないんです。自分のフィールドでそして自分の地域の人たちと共に学ぶ材料がいくらでもある。そして、実際にやっているインターネットもパソコンも、そういう人にきて教えてもらったらものすごく生きた勉強になります。ただ使い方を教えてくれるのではなくて今の農家大変だよ、お米が売れなくなって。だから俺は、自分で工夫して直接買ってくれる人を開拓したんだ。そういう話とコンピュータの使い方みたいなものまで教わるとしたらすごい先生ですよ。実践でやっている。そういう宝物って地域にあふれているのです。私も教育コーディネーター養成講座というのを佐藤さんと豊栄でやらせて頂いたり、県でやらせていただいたりしてきましたけれども、この加治川でやって、またちょっと違うやり方をやりたいと思うようになったのです。なんか特別な人を育てると言うよりも地域のみんなが地域を知るといふプログラムをやって、そして宝物マップを作って、そして地域の人たちにきて話をしてもらってそして村がどうできるか、みんなで考えていく中に学校の先生とか公民館の方がおられればそこから自然に講座やカリキュラムが組まれていくわけです。あるいはそういうことを子どもたちがいる所でやれば、子どもたちは自分達が興味を持った所に自分達で学びに行く。そして学び方のコンピュータを使ったりとか、地域の人がいるわけですから学校の先生はそれを支援し、場を作ったりすることができれば、スムーズに何かを教えたりということではなくて場があればできていく。私は、最初に教えるほうの考える方のカリキュラムではなく、学習者主体のカリキュラムあるいは学習者主体の教育法・学習法というものを研究していくことが大事だと思っていたのです。でも、私にしてもまだワークショップという学習者主体の手法なんだけれども、教える方の自分の側でしか考えていなかったと、もっと学習者主体ということはどういうことなのだろうか、あるいはともに学びあうということはどういうことなのだろうか、ということを経験しながら一緒にやっていく必要があることを思わされた加治川のワークショップでした。

ワークショップの感想がいいですね、加治川の宝物ワークショップをやったときに、加治川村民になって40年、あまり

にも村内の歴史や史跡になんかに無知であったということに気づいた。ずっと加治川村に住んでいて今日初めてわかったことが多いことが気がついた。村の歴史が意外と深いことに気づいた。前回にもまして新しい発見がありかなりすごい村なんだと実感した。自分の集落にすばらしい宝物があったことに驚いた、ということです。加治川村に住んで新しい発見をいっぱいしたという自ら発見した喜びです。それと、嬉しく思ったことの中に、嬉しいことはいっぱいあったとこれからも新しい発見をしたいと思います。村民の方の暖かさも知りました。それから加治川村がびかびかに光って見えてとても嬉しかった。これからは観光ということとはとても大事になっていくと思うのです。国では観光立国、あるいは新潟県でも観光立県というようなことを言い始めていますが、観光ということはとても大事な一つの新しい産業として、あるいは地域づくりの核になっていく一つだろうと思っている、観光の元の意味は、光を見るその地域の人たちが、幸せそうに生き生きと豊かに暮らしている。その暮らし方を見に行くのが観光だということ以外に聞きませんでした。なにも施設があるとか、名所旧跡があるということ以外にもっと観光というのはその地域にいる人たちが本当に輝いている、生き生きと生きている、豊かに生きている、それが観光なんだということだと思う。本来の意味からいって、地域活動をおして地域の人たちが光り輝いている。あるいは地域が光って見えていく。そういうことがいろいろな活力を生み出していくのだからということもまた、再確認させていただきました。

そんなことで、私は、なにも地域コーディネーターというのは特別な難しいことを考えなくても、ちょっとしたコミュニケーションのワークショップの手法を使って、そういう人が今、県内にたくさん出てきました。ワークショップの講座を受けた人が新潟県と一緒にやってきた地域づくりコーディネーター養成講座はもう9回。1回30名ですから270名、300人位の人たちがコーディネーター養成講座を受けたという人たちが県内にいます。それ以外にもいろいろな所でやられていますから、ものすごい数の人たちがワークショップなり、コミュニケーション技術を身につけた人たちが今県内にいるわけです。そういう人たちと協力しながら地域の人たち自身が宝物なんだと、そうやって地域を知るプログラム、地域の宝を発見するプログラム、それをどう生かしたらいいかというプログラム、そこに地域の人たちが先生になっていく。その場作りをただしていくだけでも大きな新しい道が開けていくのではないかと、いうふうなことを感じております。

○三春町武藤先生の話 (省略)

※詳細は後日の報告書で

4 おわりに

今日も受付の所に少し持ってきていますけれども、新潟の学校改革といいますか新潟で面白い活動をしている学校を取材して作ったビデオも、一口1万円で約500万集めて去年作りました。そんなこともあの時武藤先生の話聞いた連中が、みんな何かしたい、何も当てのない教育関係者じゃない人間なんだけど何かしたい、何かしようという一歩、少しの一歩を踏み出してみんなが自分のいる場所から一歩ずつ踏み出していったことですね、非常にいろいろなつながりができる。そして私にとっては十日町小学校との出会いがあったり、聖籠中学校との出会いがあったり、生涯学習推進センターのかたと出会って、教育コーディネーター講座ができた、あるいは豊栄の佐藤館長と出会って豊栄にも教育コーディネーター講座ができた、あるいは加治川でそういうことができた、というような形で思いもしないような展開になっていったと思うのです。私は、教育コーディネーターというのはむしろ何かできるというよりも、できない人といいますが、何か自分自身の中で問題意識を持っていないから弱さとか、寂しさとか、そういうのを抱えながら人とつながっていくことを求めている人、そういう人がいるんならと手をつなぎながら、何かできないだろうか考える場を作っていく中でいろんなものが生まれてくるのかなと思います。そういう意味で私が拙い経験の中で全くそういう意味で地域の中に本当に宝物あるな、地域の宝といえる人たちがいっぱいいるな、この人たちに光にして、この人たちを先生にしていけば素晴らしいことができていくなということを実感しております。さてお役に立つようなことはなかったかもしれないけれども、私の拙い体験ごとをお話して終わりにさせていただきますが、豊栄の佐藤さんとか、加治川の吉田さんとか急にご指名して悪かったのですが、そんなことが実際にいろいろな所で起こり始めているということをご報告して終わりにしたいと思います。ありがとうございました。

第54回新潟県公民館大会 基調講演の概要 その2

特集

「地域の教育力を 高める」

新潟仕掛人会議 代表運営委員 清水 義晴

3. 事例

加治川村：それから加治川村の吉田さんに出てきていただいたけれども、今も進行中で、こども私にとってすごく面白い、ほんとに面白いことが起こっているところなのです。この吉田さんは生涯学習課、もう一人建設課の鈴木さんという方がおられます。この若手の職員の方が、合併したら加治川村は、先程宣言が読まれていましたが、それと同じ危機感を吉田さんたちは持っておられる。合併したら町のアイデンティティといいますか、個性、持ち味そういうものがどんどん無くなっていくのではないかと、合併する前にそういった加治川村のらしさ、個性みたいなものをみんなで知り合ってどうやって生かしていったらいいかと、考えようということで企画されたのです。今一緒になって進めているのですけれども、その辺のことをちょっと吉田さんからきっかけなり、感想なりを話してもらっていいですか。

吉田社教主事：突然でちょっと緊張しますが、私どもが取り組んでいる事業ですが、建設課の先程言われた若手の職員の生涯学習課と一緒に取り組んでいます。実は建設課のほうから農業振興整備計画を作りたいという話がこちらのほうに提案がありました。その計画は、住民参加で作って下さいというようなことだったのですが、建設課のほうはやっぱ住民参加という言葉に抵抗があったようで、公民館でいろんな活動しているのですが、その辺のノウハウも含めて一緒に取り組みませんかというような話があって、公民館のほうでもやっぱり市町村合併を前にして少し地域を学ぶような講座を開きたいな、と言うふうを考えていたところでした。それで建設課と一緒に地域を学ぶ講座、ワークショップという形で進めようということで計画を作らせていただきました。何をやったか、まだ進行中なのですが1回目をする前に、私ども加治川村の中でもまだ町づくりとか、地域づくりというところにまだやっぱり無知なのかな、住民の中にもまだ浸透しないのかな、市町村合併もあるんですけども合併の説明会をしてもなかなか人が集まらないという状況もあり、まだちょっと地域について無知なのかなというところがあったのですが、そこで一番最初に清水先生の講演会を開催しました。なかなか集まらないものですから私ども職員が電話をかけたなり、知り合いをお願いしたりして、最初に講演会を開催しました。その講演会の中でいろいろこの辺りの人が清水先生のお話を聞いて、今度自分のこだわりを見つけていくわけです。清水先生も見つけていくわけです。そうすると初めての講演会なのですが、今まで体験したことがない聞くだけの講演会ではなくて自分たちも一緒になって参加した、

というような充実感が生まれてきたということ振り返りの中で感じました。それを受けて、ワークショップということでちょっと期間を置きながら、いろいろ検討して1回目は地域の歴史とこだわりをちょっと考えてみましょう。「午前中に歴史を知るための街歩き」ということで午前中歴史を知る街歩きをして、その後地元こだわりの人の発表、こだわりをそれぞれ発表して、それを受けて参加してくれた皆さん、25名位ですが、半分ずつに分かれて地域の宝物マップを作成しようということでワークショップをしました。いろんな地図ができてきました。宝物マップができてきたのですが、やっぱり感想の中で地元について地元のことを知らなかった、このワークショップに出て初めて地元のことを知ったとか、こんなにいっぱいこだわりの人がいて、しかもこだわりの人同士のつながりも今までなかったのですが、それがつながってきたというような形で、参加者の中では参加者同士のつながりというのがたくさん出てきたということです。2回目ですが7月13日開かせてもらいました。その宝物マップをもとにちょっと未来の地域を描いて見ようということで、それこそ未来の「将来マップを作る」というような形をやったのですが、ちょうどそのときに、1回目は出なかったのですが、2回目に小学校の教頭先生に参加していただきました。やっぱり小学校の中で総合学習とかいろんなことがあるのですが、なかなか地域のことがわからない、地域のことを知らないということだったのですが、小学校の教頭先生が、1年生が自然学習をしたんだけれども、先生の隣にいた人が地元の自然だったら私に任せろ、産業のことを知りたいなら私に、参加者の中に養豚を経営されている方がいて、農業関係だったら私がと言うことで、どんどんつながりができてきているという状況が今の状況です。これからつながりを大切にしよう一回地域のことを見つけ直して市町村合併の前に地域を考える講座という形でやっているのですが、地域づくりの種を今まいていきたいという状況です。なかなか初めてのことでうまく進んでいないところを清水先生にフォローしていただきながら今進めているという状況です。わかりにくいですが、また先生のほうでフォローしてください。

清水：ありがとうございます。

吉田さんのさすがだなと思ったのは、最初のときに、加治川の大きい地図を張って、会場の中から面白いことをやっている人たちから話をしてもらいながら地図にプロットしていった。ここに桜を植えている人がいるとか、ここではガイドをしている人がいるとか、ここでは虫を育てている人がいるとか、というのを会場の中から話してもらって地図に書きながらみんなまで話を進めていった。そしたら大峰山というすばらしい山があるということが、そのガイドをやっている人が結構いるということですぐわかりました。そしたら、すぐ大峰山の山登りのハイキングという生涯学習の講座を組んだのです。すぐにそういう地域づくりでこういう人がいる、こんな面白い人がいる、こんな活動をしている人がいる、そこからいろんなものが生まれていくわけです。あれも面白いと思いました。

今吉田さんが話してくださいました中で、私がすごく面白いと思ったのは地域の宝物探し。私はまちづくりで必ず一番最初にやるのは地域を知ることです。地域をまず知りましょう。これが驚くほどに私も含めて、今までほんとに自分の地域のことを知らなかったということを全ての人が言います。あるいは自分の町に何もないと思っていた、こんなにいいものがある町だというのがわかった、よその町ばかりよく見えたけども自分の町がこんなにいい町だということがわかった、とみんな言います。その地域を知る、地域にどんな人がいるか知ろうということで生涯学習課の人たちというのは良く知っていますから、みんな手分けして地域に入ったら、面白い人が「いるわいるわ」って感じですね。今虫を増やしている人、虫を増やすだけでなく虫の観察小屋を作ったり、カワニナを育てたり、その人がものすごく詳しいのです。それから野鳥観察をしたり、山の登山のガイドをしたり、加治川を桜並木の日本一にしようと思ってやっている人、獅子舞を何十年ぶりに復活して、そして日本一の獅子舞にしようとして子どもを巻き込んで、笛の練習から獅子舞を教えている人、350人から400人集まるような盆踊りを復活した人、それからこだわりの味噌を作っている人、お米がなかなか売れないのでインターネットを自分で工夫して今は倍、倍に売れているというお百姓さん。全部自分で独学でインターネットやっている。その会場で「ここには税務署の人もいないでしょうね」なんて言いながら話してくれたんですけど、ものすごく売れているらしいです。私はそういうことに興味はあり

実践記録 67 シリーズ

第54回新潟県公民館大会 実践事例発表2から 5日制で訪れた地域の出番

大島村公民館 生涯学習係長 小山卓男

1 大島村の概要

大島村は東頸城の中央部、上越市と十日町市の中間に位置し、共に30kmの距離にある。総面積約72km²で南北に20kmと細長く、周囲を山々に囲まれた自然豊かな農山村である。平成9年春、待望のほくほく線も開通し、農業と山里文化を糧として都市との交流を進めている。人口は2,500人ほどで、少子高齢化は県内でも著しい。平成9年、村内の四小学校が統合して一村一小学校となり、現在小学生は106人、中学生は67人である。

2 村の生涯学習の現状

過疎化や少子高齢化が進むなか、豊かで活力ある地域社会を創造するため、大島村では、人材の育成と生きがいの追求、心ふれあうコミュニティーづくりなどを目標に、生涯学習事業に取り組んでいる。特に、地域の特性を活かした地域コミュニティーづくりは、学校の完全週5日制に対応した子どもたちの週末の体験活動を通じて、よりいっそうの推進を図っている。事業を推進するうえで、公民館本館をはじめ旧小学校区単位に設置された四つの分館が大きな役割を担っている。

また、平成3年には全国に向けて音楽村を宣言。平成12年からは村全体を美術館とする村は大自然の美術館構想を推進するなど多彩な芸術文化活動を展開している。

3 5日制で訪れた地域の出番

5日制のねらいは、学校・家庭・地域がそれぞれの役割を果たして、子どもの生きる力を育むこと。それには、地域と家庭の教育力の向上がなくてはならない。
第2・第4土曜日＝家庭

従来から休みである第2・第4土曜日は、親も休みの人が多い。各家庭で家族がゆっくりふれあって、ゆとりを持って過ごす。
第1・第3土曜日＝地域・公民館

新たに休みとなった第1・第3土曜日は、まだまだ親は仕事の人が多い。子どもの数が限られていて活動に限界がある。
第1土曜日は、地域で子どもたちの活動を支援。
第3土曜日は、全村を対象に公民館で普段できない活動を展開。

1町村でできない体験は、広域連携で。

4 おおしまウィークエンドひろば

○地域活動の日 (第1土曜日)
旧小学校区の菖蒲・大島・保倉・旭の4地区で、地域が主体となり週末の体験活動を全面的に支援していく。地域の自然や歴史を活用して地域の魅力を発見、再認識してもらう。農業体験、自然体験や地域の名人による技の伝承など地域だからこそできる事業を展開している。(平成14年度延べ参加人数：小543人・中192人・高67人)

旧小学校区の菖蒲・大島・保倉・旭の4地区で、地域が主体となり週末の体験活動を全面的に支援していく。地域の自然や歴史を活用して地域の魅力を発見、再認識してもらう。農業体験、自然体験や地域の名人による技の伝承など地域だからこそできる事業を展開している。(平成14年度延べ参加人数：小543人・中192人・高67人)



わら細工 (保倉地区：15年3月)

○全体活動の日 (第3土曜日)
野外ひろば・創作ひろば・スポーツひろばを公民館本館で展開。農業体験や自然体験は地域活動が担ってくれるので、芸術文化体験やニュースポーツの普及などを重点的に行なっている。地域活動と全体活動を合わせたなかで、子どもたちが様々な体験ができるように配慮している。(小286人・中69人・高19人)



キンボール教室：15年5月

○広域連携事業
大島村・浦川原村・安塚町の3町村の連携で行なっている。14年度はアルビレックスサッカー教室を開催。少人数の子どもたちにとっては貴重な交流の場でもある。(小15人)

5 事業推進体制＝ウィークエンド推進委員会

小中学校、小中学校PTA、子ども会、公民館本館・分館、地区振興協議会、文化団体、老人クラブ、社会教育委員、体育指導委員、教育委員会の代表で組織。各地区では、地区振興協議会、公民館分館、子ども会、各種団体の代表で事業を計画し推進している。地域をあげての取り組みであり、地区振興協議会と公民館分館の果たす役割が大きい。

6 成果と反省

全体活動は毎回30名前後の参加者があり好評である。回を重ねるごとに保護者の参加も増えてきており、公民館事業への関心が高まってきている。また、子どもたちへの案内や参加取りまどめを学校が行なうなどウィークエンド事業を通じて、学校と公民館の連携が深まった。

地域活動に関しては、地域で計画を立てて一年を通じて事業を展開したことで、地域の子どもの地域で育てるという気運が生まれてきた。

一方で反省点も数多くあった。

計画を立てる時間が少なかった。各子ども会の計画ができた後にウィークエンドの計画が策定された。新規に事業が増えた分、行事が重なってしまった。子どもや保護者の理解が少ない。

計画に子どもの意向が反映されていない。お客さんになりがち。

中学生は部活動があり参加が少ない。

中学生・高校生向けのメニューが少ない。

7 2年目に向けて

○村の行事や他の団体の事業との調整を図るため、昨年12月から本年度の事業計画づくりに取りかかった。計画に子どもの意向が反映するよう子ども会などに働きかけた。

計画策定のながれ
子どもが地域活動の計画案策定 → 子ども会で計画案策定 → 地区で計画策定 → 全体活動の計画策定 → 村の行事との調整 → 再度地区で調整・学校へ事業概要を連絡 (事業の重複がないように) → 事業計画の決定

○高校生のボランティア登録
全体活動でのアシスタントやリーダーの役割を担ってもらう。

○地域コーディネーターの配置
地域における学習・体験ニーズの把握、指導者の発掘。地域活動における指導者の確保や各団体との連絡調整。

○地域教育力・体験活動推進協議会の設置
週末の学習・体験活動をはじめボランティア活動・体験活動を総合的に推進し、地域の教育力の活性化を図る。

8 課題

「おおしまウィークエンドひろば」は週末の活動としてスタートしたが、ボランティア活動や体験活動だけでなく、青少年の健全育成も含め村の生涯学習の核となる事業に育てていきたい。子どもたちの主体的な参画を図っていくには、家庭教育の充実も欠かせないし、ある程度の時間と粘り強く事業を継続していくことが大切だ。

地域活動には子どもたちだけでなく、地域住民が共に学び自ら高めていく活動が期待される。地域で考えて行動し、地域行事に子どもたちを積極的に取りこんでいくことで、地域の活性化が図られると信じている。

手話りで交流

十日町手話サークル

私達は週に一回、地域の聴覚障害者の人達と一緒に、共に学び共に活動したいと手話の勉強をしています。一年の行事としては花見会をしたり、ボーリング大会等サークルとしてやっていることと、県サークル連絡協議会主催の手話まつり、県聴覚障害者協会主催の「耳の日の集い」、球技大会等の参加があります。来年は、サークル創立三十周年を迎えます。



地域の聴覚障害者協会の三十五周年記念と合わせてイベントを計画しています。来年の11月、ろう者劇団代表であり映画の監督でもあるNHK「みんなの手話」の講師をしてきた米内明宏氏を迎えての楽しいイベントにしたいと思えますので、その時は皆さんも気軽に遊びにおいで下さい。

十日町手話サークル
金井 正一 記



トトロの友達
活動報告
子育てサークル トトロの友達

入園前の親と子どもを対象にしたサークルです。週に一度、育児についての情報交換、この時期に大切な親の息抜き、そして子ども



うしの交流の場が目的になっています。

ピクニックやフリーマーケットなどの活動を通して、なにかと大変な育児期を親子共に楽しんですごせればいいと思っています。

また月に一度のお誕生会では、子どもの笑顔がうれしいです。これからもサークル活動を通じて、笑顔の輪が広がると思います。

羽茂町子育てサークル
トトロの友達
中川 由美子 記

開館5年目を迎えた「ラピカ」職員の中で、ひときわ輝いている男、それが小林さんです。

写真のとおり、美しいヒゲをたくわえるその姿は、まさに現在の「美髯公」。後世に神として奉られるようになった、三国志の英雄、関羽にも引けを取らない偉丈夫ぶりです。

その才能は他方面に発揮され、スポーツは万能、習字の腕



刈羽村生涯学習センター「ラピカ」文化振興係 主事 小林孝至さん

はプロ顔負け、カリスマ性も兼ね備えた、天から二物も三物も与えられた人です。

仕事の方も八面六臂の大活躍で、各種講座やイベントの企画、開催、頼りない部下の育成（私です）等で、大変忙しい日々を送られています。

皆様もぜひ、小林さんに会いにご来館ください。職員一同、ヒゲを長くして？お待ちしております。（刈羽村生涯学習センター 主事 太田裕之 記）

初対面での彼の印象は、紺のスーツを着こなすティボーイ…。ところが今や、綿パンが一番よく似合う土のおいのするカントリーボーイの感が強くなった。土に触るとあったか〜いあの感触、彼の持つそんなエネルギーに妙に安心感を覚えるのは私だけではないはず…。

そんな彼が、今一番たいせつにしていることは、地域の旬の



豊栄市中央公民館 主事 高橋正範さん

声を聞くこと。もちろん素材の良さを生かすことも忘れない。そのうえで、絆という糸を紡いでいる。まだまだ切れたり絡まったりとやんちゃ盛りの糸ではあるが、彼の太腕に守られたたくましく紡がれていく様は、実に頼もしい一言。

今まさに、家庭でも地域でも子育て真っ最中！！い〜い、おとうさんです。（豊栄市社会教育課社会教育指導員 宇賀田規恵記）

素顔
拝見

9月3日 月刊公民館編集委員会出席のための上京の途次、埼玉県公連事務局へ立ち寄り、関プロ大会のお礼と労のねぎらいを申し上げた折り、この冊子をいただきました。

車中で早速編集後記と奥付を見てこれまたびっくり、何と発行は平成15年8月20日付となっているではないですか。第44回関プロ大会前に完成していたこととなります。さすが、研修重点の埼玉県公連の底力と迫力



を感じさせられました。

内容は、第一部第24回埼玉県公民館研究会記録とし、パネリストスキャッション「最近の公民館を取り巻く状況とこれからの展望」と、分科会の(第1から

資料紹介 俺らホーじゃこうだよ

埼玉県公民館連合会

ら第9までの内容が収録されております。

第二部は、埼玉県公民館研究会10年の研究のまとめと提言がなされております。

この研究会は、平成15年2月7日、埼玉県嵐山町の国立女性教育会館で六五〇余名の参加を得て開催され、この研究会の提言等に基づき関プロ大会の基調提案を作成し、大会の成功につなげたとか。

Net work

ネットワーク

平成15年度

中越地区公民館長・主事・公運審等研修会開催案内

- 趣旨 (省略)
- 主題 公民館活動で元気を出そう
- 主催 中越地区公民館連絡協議会
- 共催 新潟県公民館連合会
- 主管 小千谷市公民館・北魚沼郡町村教育委員会協議会公民館部会
- 期日 平成15年11月28日(金)
- 会場 湯之谷村地域振興センター2階 コンベンションホール
TEL 02579-2-7300 (奥只見郷インフォメーションセンター)
FAX 02579-2-7200 (奥只見郷インフォメーションセンター)
- 日程
 - 受付 13:00~13:30
 - 開会式 13:30~13:40
主催者あいさつ 中越地区公民館連絡協議会長 神林 茂
来賓あいさつ 中越教育事務所社会教育課長 青柳良一様
 - 講演 13:40~14:30
演題 「昔話を通して感じたこと」
広神村 青山幸子様
 - アトラクション 14:35~14:50
未定 約15分
 - 実践発表 15:00~15:50
「魚沼わくわくネイチャー体験クラブの実践活動」約25分
自然体験指導者 坂本恭一様
「小千谷市公民館」(発表者未定)約25分
 - 閉会 15:50~16:00
閉会あいさつ 中越地区公民館連絡協議会
- 参加費 500円(資料代)
(当日、市町村単位で受付に納入してください)
- 参加申込み 広神村公民館
〒946-8555 広神村大字今泉1488番地1
TEL 02579-9-3227 FAX 9-2417
平成15年11月18日(火)までに

event information

平成15年10月の催物ご案内

平成15年度 文部科学省委託事業 民教協 関東・中部・北陸地区研究協議会

テレビと生涯学習 輝ぼう!自分らしく

～大人と子どもの夢さがし～

参加お申込み・お問い合わせ

民教協 関東・中部・北陸地区研究協議会事務局
〒951-8655
新潟市川端町3-18 BSN新潟放送局
TEL 025 (267) 4111
FAX 025 (267) 4116
参加のお申込みは事務局へお願いします。

メディアフォーラム

新潟市民芸術文化会館 りゅーとびあスタジオA

午前 9時30分 開場・受付
10時00分 メディアフォーラム

テーマ 「テレビで教わるもの、育むもの」
日本でテレビ放送がはじまって50年。テレビから何を教わって、何を育むのか…。テレビと教育の関わりを考えます。

コーディネーター
生田 孝至
新潟大学教育人間科学部長

パネリスト
若月 正勝
新潟青少年自立援助センター代表
眞壁 あさみ
新潟青陵大学講師
南 加乃子
BSNテレビディレクター

11時30分 終了
引き続き午後の記念講演会および
ヒューマンシンポジウムにご参加ください。

地区研究協議会

新潟市民芸術文化会館 りゅーとびあ劇場

午後 12時30分 開場・受付 1時00分 開会式
1時30分 記念講演



「子どもと共に考える、楽しい不便、
賢い我慢。あしたづくり!」

講師 大林 直彦 (映画作家)

2時30分 次年度主管局紹介 NBN名古屋テレビ放送

2時50分 ヒューマンシンポジウム



「大人と子どもの夢さがし」

コーディネーター パネリスト
城戸 真亜子 (洋画家) 長谷川 晴彦
はくせん会クラブ代表
アドバイザー 小千田 聡男 みかわ天文台長
藤原 英典
ゴスペルクワイアRAWSOULメンバー
佐藤 真奈 大学1年生
横山 道子 ミニかがり屋女子会
日本報団650キロ建設中学生

4時30分 閉会式

10月25日(土)

10.11月は、正に研修のシーズン、中・下越地区公連職員研修会に取材を兼ねて参加させていただきます。それぞれ、地区公連の特色を生かした内容で、有意義な研修でした。

9月号8面 下公連研修講師 大滝聡様、ルビに誤りがありました。さとし様が正しいそうです。(鈴木 記)

表紙解説 三川村教育文化センター 平成14年度で閉校いたしました谷花小学校の跡地利用で三川村の文化活動の拠点として設置しました。